

研究部だより

秋田県立栗田支援学校
研究部 第5号
令和6年8月29日発行

先日は、中学部全校授業研究会に向けた事前検討会へのご協力ありがとうございました。検討会では、多数のご意見をいただきました。提示授業の概要と検討会でいただいたご意見、助言内容の一部を紹介します。

単元名	みんなのためにプロジェクト～秋の飾り作り～ (中学部3年生)		
単元について	<p>○単元の設定理由 学部研究日を活用して、各学年の生活単元学習のテーマを検討しました。 以下は提示授業において学年が検討している内容です。</p> <table border="1"><tr><td><興味・関心のある活動、得意な活動> 制作活動、みんなで遊ぶこと、調理 タブレット端末、体を動かすこと等</td><td><育てたい資質・能力> 挨拶、言葉遣い、思いやり、気遣い みんなとやり遂げる経験、他者貢献の気持ち</td></tr></table> <p><今年の生単で育てたい！中3のテーマ> みんなのために (勤労観)</p> <p>○単元の概要</p> <ul style="list-style-type: none">職員室前や玄関付近など校内の数カ所に季節を象徴する装飾をする。本単元では、「秋の飾り作り」をテーマとしており、前の単元では、「夏の飾り作り」として七夕の飾り付けなどを行った。 <p>○本単元で想定している「学び」</p> <ol style="list-style-type: none">秋を象徴するものを考えたり、イメージを広げたりする。相手が喜ぶ仕上がりについて考え、その仕上がりを意識して制作する。秋の飾りを作って喜んでもらうという共通の目的に向かって、仲間と協力して取り組む。 	<興味・関心のある活動、得意な活動> 制作活動、みんなで遊ぶこと、調理 タブレット端末、体を動かすこと等	<育てたい資質・能力> 挨拶、言葉遣い、思いやり、気遣い みんなとやり遂げる経験、他者貢献の気持ち
<興味・関心のある活動、得意な活動> 制作活動、みんなで遊ぶこと、調理 タブレット端末、体を動かすこと等	<育てたい資質・能力> 挨拶、言葉遣い、思いやり、気遣い みんなとやり遂げる経験、他者貢献の気持ち		

<協議内容>

- 本単元で想定している「学び」を実現するための学習活動や手立ての工夫
- 本単元での「学び」の積み重ねを実感するための学習活動や手立ての工夫

<各グループからのアイデア>



① 相手の明確化

- 相手の対象を絞ることで、相手意識が芽生え、そのニーズが分かりやすくなるのではないかな。
- 相手が何を求めている、何のために飾りを制作するのかという押さえが大切。



② 制作のポイント

- 何をもちよいい仕上がりとするか。飾る場所や見る人によって、その評価が変わるのではないかな。
- 生徒が考えるポイントと相手が良いと思うポイントが一致しないこともある。相手の理解を通して、その擦り合わせが必要。



③ 自己評価と他者評価

- 友達同士で制作物や取り組みを評価し合う機会や、対象となる相手から評価してもらう機会を設定してみてもどうか。
- 取り組みの様子や成果物を見える形で残して置いてみるかどうか。(写真付きのワークシートなど)

<助言>
－自立活動アドバイザー 二階堂悟先生より－

- 「役割と責任」
 - ・ 中学部研究の中で示している「生徒が自分の役割を果たす経験や、他者から認められる経験を通して達成感や喜びを感じることは自立活動の視点においても重要な事柄である。他者との関わりの中で、役割を担い、責任を果たしていく経験を重ねることで、自己有用感を高めていくことができるのではないか。
 - ・ 「責任を果たしたか」という判断は、自分で決めるのではなく相手が決めること。客観的な評価やアドバイスを基に相手視点で物事を考える経験を通して、よりよい学びの実現を目指してほしい。
- 「意図と結果」
 - ・ 生徒が考えて行動したとき、その意図を言語化して整理する学習活動がとても大切。私たち教師が意図して手立てを準備するように、生徒の行動においてもその意図を明確に整理し、結果と一緒に振り返ることを意識してほしい。
- 「目と手を育てる」
 - ・ 目を育てることを意識して、注目したり注意を向けたりする力を養っていかないと、何に気を付けたらよいか分からないという状況になってしまうことがある。また、それと同時に手や体の動きを育てるための教材の準備や手立ての工夫を講じることで、手を育てるという視点も大切にほしい。
 - ・ 系統的に「目と手を育てる」ことで、「分かる」と「できる」の間にある苦手意識や困難なことへどう対応していくべきか見えてくるのではないか。



<グループ協議、助言を受けて>

① 相手の明確化

- ・ 相手の想定は学校職員や来校者とし、それらの人のニーズを具体的に知る手立てとして、小助川さんや事務部の安藤さんへのインタビュー動画を活用する。

② 制作のポイント

- ・ インタビュー動画では、職員や来校者の反応と感想、秋の飾りへのリクエスト等について触れ、動画を視聴した生徒がワークシートを使って次時に向けて制作のポイントを整理できるようにする。

③ 自己評価と他者評価

- ・ 制作物を同じグループの友達に見てもらい、感想や意見をもらったり、進捗状況と今日の成果を紹介したりする時間を設定する。
- ・ 制作途中の段階でも、定期的に相手（事務室職員）に評価してもらう機会を設定する。

助言を受けて

- ・ めあてに沿った役割を設定し、それぞれの責任を果たせたか客観的に評価する場面を設ける。
- ・ 制作場面では、生徒の実態に応じた教材を用意したり、完成見本を提示したりする。

たくさんのご意見ありがとうございました。今後の授業作りに生かしていきます。

